

## JSPSボン研究連絡センター 2011 年度第 2 四半期活動報告 (2011 年 7 月～9 月)

### < 目 次 >

|                                           |      |
|-------------------------------------------|------|
| 1 2011 年 7～9 月の主な活動                       | …p 1 |
| (1) 東京農工大学とボン大学との姉妹校協定調印式に出席              |      |
| (2) DFG 年次総会に出席                           |      |
| (3) “Junior Experts Exchange Program”に出席  |      |
| (4) ケルン大学日独 150 周年記念シンポジウムに参加             |      |
| (5) JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会“JSPS Abend”を開催 |      |
| 2 2011 年 10 月以降の予定                        | …p 8 |
| 3 センター長雑感                                 | …p 8 |

### 1 2011 年 7～9 月の主な活動

#### (1) 東京農工大学とボン大学との姉妹校協定調印式に出席

2011 年 8 月 11 日午前 10 時より、ボン大学内ドーフテンツィマーにて東京農工大学とボン大学との姉妹校協定調印式が行われ、小平センター長が在デュッセルドルフ総領事館 小井沼紀芳総領事とともに立会人として出席した。中川副センター長と坂本国際協力員も陪席した。

調印式ではまず、ボン大学のユルゲン・フォアマン学長から歓迎の挨拶があり、それに応じて東京農工大学 松永是学長より、協定締結に感謝する旨、挨拶がされ、両学長が協定書類に調印した。調印後、小井沼紀芳総領事、小平センター長の両立会人から、両大学の交流が深められることを祈念する旨、挨拶がなされ、続いて国連大学ヤコブ・リンナー副学長からも挨拶があった。

調印式に続き、会場を生命医科学研究所(LIMES)に移し、両大学の研究内容等を紹介するワークショップが開催された。ワークショップの冒頭では、LIMES の所長で今回の協定調印においてボン大学側の中心的な役割を果たしたミヒャエル・ホーホ教授から歓迎の挨拶があり、東京農工大学の松永学長、小井沼総領事、小平センター長の挨拶と続いた。小平センター長は、関係者のこれまでの努力に対する賛辞と、今後の交流発展に向けて、この一步を大切に、着実に発展していくことを祈念する言葉を述べた。ワークショップは昼食を挟み、午後 5 時ころまで続けられた。

<関連 URL>

東京農工大学ホームページ プレスリリース

<http://www.tuat.ac.jp/disclosure/pressrelease/20110608163739/20110823184844/index.html>



協定書に署名するボン大学 フォルマン学長(中央左)と東京農工大学 松永学長(中央右)(左 小平センター長、右 小井沼総領事)



調印式会場の様子



ワークショップで挨拶をする小平センター長



東京農工大学 宮浦教授(左)とボン大学 ホーホ教授(右)



ワークショップの様子



ボン大学 LIMES 施設見学

## (2) 小平センター長、中川副センター長が DFG 年次総会に出席

日時: 2011 年 7 月 6 日

場所: 芸術・展示ホール(ボン市)

“Gemeinsam für die Forschung“(研究のために力を合わせて)というモットーの下に、DFG 年次総会が開催された。2011 年は DFG 創立 60 周年(正しくは戦後の再設立から 60 周年)という節目の年であることからメルケル首相も出席した。当センターからは小平センター長と中川副センター長が招待され、出席した。

メルケル首相の祝辞では、冒頭で連邦政府としての祝意を表明し、“Das schönste Glück des denkenden Menschen ist, das Erforschliche erforscht zu haben und das Unerforschliche zu verehren.“(思慮深い人間にとっての最大の幸福は、探求できることは探求し、人間が知り得ることのできないことは敬うことである)というゲーテの言葉を引用した。続いて、「科学と研究には自由が必要であることは疑いの余地はない」と強調した上で、「科学には、倫理的な責任と、自己満足で終わることなく広く広められ、開放されなければならないという 2 つの責任がある」と述べた。それに対して DFG のクライナー会長は挨拶で、「科学は何の役に立つのか」という問いかけは常に繰り返されなければならない。私たちは研究における、また研究によってもたらされる科学の認識と我々の進歩を常にある程度距離をおいて見守り、また批判的に省察することによって科学をもっと豊かなものにすることができ、そうしなければならないのです」と述べた。

< 関連 URL >

[http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2011/pressemitteilung\\_nr\\_34/index.html](http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2011/pressemitteilung_nr_34/index.html)

メルケル首相、クライナー DFG 会長講演全文(ドイツ語)

[http://www.dfg.de/dfg\\_profil/reden\\_stellungnahmen/2011/110707\\_pk\\_jahresversammlung/index.html](http://www.dfg.de/dfg_profil/reden_stellungnahmen/2011/110707_pk_jahresversammlung/index.html)

## (3) “Junior Experts Exchange Program”に出席

日時: 9 月 5 日

場所: 連邦教育研究省(BMBF)(ボン市)

ドイツ連邦教育研究省(BMBF)とドイツ連邦経済技術省(BMWi)が資金を提供し、ベルリン日独センターが実施している“Junior Experts Exchange Program”の一環として、同プログラム参加者を対象としたドイツの研究政策等についての説明会が BMBF で開催された。BMBF より当センターへ、この説明会での JSPS 事業紹介の依頼があり、小平センター長と坂本国際協力員が出席した。

“Junior Experts Exchange Program”とは、特定の研究分野における日本の若手研究者 10 名前後をドイツに招待し、約 10 日間の行程でドイツの大学や研究機関の訪問、ワークショップ開催などを通して、その分野における日独間の研究交流を促進するものであり、毎年 1 回開催されている。2011 年は太陽

エネルギー分野での研究交流を目的としており、日本から 8 名の研究者が招待された。参加者の選抜は公募により行われる。

本説明会では、まず BMBF における太陽エネルギーを含めた新たなエネルギーの開発・活用についてのプロジェクト及びその予算、システム、目的等の紹介があり、次に、教育・研究分野における国際交流の現状や国際交流促進に関わるプロジェクトの紹介が行われた。BMBF からの説明に続いて、小平センター長が、JSPS 事業の内、特にドイツとの国際交流事業について紹介した。

コーヒーブレイクを挟んで、ドイツ研究振興協会 (DFG) における研究プロジェクト全般や、その中でも特にエネルギー分野に関わるプロジェクトの紹介、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団 (AvH) による海外研究者に対する奨学金プロジェクトの紹介、さらには、実際にエネルギー分野に関するプロジェクトを実施している、ドルトムント工科大学の担当研究者からどのように具体的にプロジェクトを進めているのか等の紹介が行われた。

#### < 関連 URL >

“Junior Experts Exchange Program”の公募関連 URL

- ・ベルリン日独センターホームページ

[http://www.jdzb.de/index.php?option=com\\_content&view=article&id=17&Itemid=22&lang=ja](http://www.jdzb.de/index.php?option=com_content&view=article&id=17&Itemid=22&lang=ja)

- ・ドイツ大使館東京ホームページ

[http://www.tokyo.diplo.de/Vertretung/tokyo/ja/07\\_20Wiss/Aktuelles/2011/Ausschreibung2011.html](http://www.tokyo.diplo.de/Vertretung/tokyo/ja/07_20Wiss/Aktuelles/2011/Ausschreibung2011.html)



JSPS 事業紹介をする小平センター長



会場内の様子

#### (4) ケルン大学日独 150 周年記念シンポジウムに参加

日時、場所

①開会式:9 月 8 日、国際交流基金 ケルン日本文化会館

②パネルディスカッション:9 月 9 日、ケルン大学

2011 年 9 月 8 日から 10 日にかけて、ケルン大学で日独 150 周年記念シンポジウムが開催された。これは、前号の四半期報告書 1-(2)において報告した、ドイツの大学における「日本週間」の一環で開催されたものである。

9 月 8 日にケルン日本文化会館の支援の下に、同会館にて開会式が開かれ、当センターから小平センター長、中川副センター長、坂本国際協力員が出席した。開会式には 150 名程度が出席していた。開会式は、ケルン日本文化会館 手塚和彰館長、ケルン大学 アクセル・フライムート学長、ユルゲン・ロータース ケルン市長による歓迎の挨拶により始まった。続いて、在デュッセルドルフ日本国総領事館 小井沼紀芳総領事、在日ドイツ大使館 フォルカー・シュタンツェル大使が日独交流のこれまでの歴史を振り返り、今後の更なる交流発展を祈念する挨拶を行った。

9 月 9 日はケルン大学にて、“Perspectives of Japanese-German Research Co-operation in a Globalising World(グローバル化する世界における日独研究協力の展望)”というテーマで、パネルディスカッションが行われた。当センターからは小平センター長がパネラーとして出席し、中川副センター長、坂本国際協力員が陪席した。

このパネルディスカッションではフォルカー・シュタンツェル在日ドイツ大使が司会を務め、始めに司会者からパネラーの紹介が行われ、続いてドイツ学術交流会(DAAD) ウルスラ・トイカ日本・韓国・オセアニア担当課長と小平センター長が導入的な講演をした。小平センター長は、自身のドイツ留学経験も含めたドイツと日本との学術交流の実際について講演を行った。引き続き、ノルトライン・ヴェストファーレン州イノベーション・学術研究省 ヘルムート・ドクター副大臣、小井沼紀芳総領事をはじめとするパネラーがそれぞれの意見を述べた後、日本からの招待客の一部からもドイツの大学との交流関係等について、それぞれの大学の事例に基づいた概要の説明があり、質疑応答が行われた。

ケルン大学はこのシンポジウムを同大の重要行事と位置付け、日本のすべての協定校の学長に対して招待状を送付したとのことで、日本の 10 前後の大学からの参加があり、いくつかの大学からは学長が出席していた。別の会場では学部ごとにテーマを定めた日独ワークショップが開催されていた。

#### <関連 URL>

ケルン大学ホームページ <http://www.jap-ger150.uni-koeln.de/4279.html>



9 月 8 日 開会式会場



フライムート学長による挨拶



9 月 9 日 パネルディスカッション



講演をする小平センター長

#### (5) JSPS ボン研究連絡センター年次活動報告会“JSPS Abend”を開催

日時: 9 月 16 日

場所: ホテルブリistol (ボン市)

JSPS ボンセンターは例年、近隣の対応機関、大学等諸団体の長をはじめとする関係者を招待し、JSPS 及び当センターの活動報告を行うとともに、日頃の協力に対して感謝を示し、更なる交流・協力の輪を拡げるため「JSPS Abend (JSPS のタベ)」を開催している。本年度は昨年度に引き続き、JSPS 本部から小野元之理事長も出席して、開催した。出席者数は 70 名程度であった。

小野理事長の開会挨拶では、東日本大震災に対する本会の対応や、科研費の基金化等本会の最近の取り組みについて説明し、自身の任期が 2011 年 9 月末をもって満了することについて言及し、これまでの協力関係に対して出席者に対して感謝の意を表した。

引き続き出席者の中から、ドイツ研究振興協会 (DFG) マティアス・クライナー会長、ドイツ学術交流会 (DAAD) マックス・フーパー副会長 (会長代行)、ボン市長 ユルゲン・ニンプチュ氏、在デュッセルドルフ日本国総領事館 小井沼紀芳総領事より挨拶をいただいた。DFG のクライナー会長からの挨拶では、スプーンを使わずにスープを飲む方法を初めて小野理事長に教えてもらい、小野理事長は自分にとって日本の先生であるという、ユーモアを交えたエピソードの披露があった。また、日独共同大学院プログラムや G8 Research Councils Initiative の実現という、これまでの DFG との協力における実績が紹介され、ヘルマン・ヘッセの小説『데미アン』の言葉を引用し、この友情が今後も永く続くことを望むと締めくくられた。

また、ボン市長を JSPS Abend に迎えるのは今回が初めてであり、当センターだけでなく早稲田大学、筑波大学の事務所もボン市に設置され、日本の学術関係機関のホスト役となっていることをはじめ、ボン市が日本との良好な関係を維持していることに対する喜びの言葉が述べられた。

挨拶に続き、2011 年の日独交流 150 年を記念し、東京大学大学院情報学環 馬場章教授とボン大学日本・韓国学専攻 ハラルド・マイヤー教授による「ボン大学日本学専攻所蔵トラウツ・コレクションの歴史写真」と題した講演を用意した。「トラウツ・コレクションの歴史写真」とは、ベルリン日本研究所長な

どを務めたドイツ人 フリードリヒ・トラウトが収集したと推定される、明治期を中心とし、幕末から昭和初期にかけての日本の写真群である。写真の数は 1,000 点以上に及び、現在ボン大学のマイヤー研究室に保存されているが、きちんとした状態で今後どのように保存していくかが問題となっており、馬場教授とマイヤー教授を中心として保存やデジタル・アーカイブ化の作業が進められている。

馬場教授からは、この写真を通した日独学術交流と、「写真には記憶が詰まっている」と写真の持つ力についての説明の後、多数の歴史写真が紹介され、写真を通してどのようなことが分かるかなどについて、詳しく説明された。講演は馬場教授が日本語で話し、それをマイヤー教授がドイツ語に通訳するという形式で進められ、講演に対しては日本人だけでなく、ドイツ人の出席者からも非常に興味深くすばらしかったという声が多く寄せられた。なお、当日の講演資料については、東京大学馬場章研究室のホームページに掲載されている(<http://chi.iii.u-tokyo.ac.jp/?p=2862>)。

講演に続いて、ボン大学 ユルゲン・フォアマン学長の乾杯の発声により、夕食会へと移った。

会の後半には、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団(AvH)のエノ・アウフデアハイデ事務総長と JSPS ドイツ同窓会のハインリヒ・メンクハウス会長から挨拶をいただいた。特にアウフデアハイデ事務総長からは、ヘルムート・シュヴァルツ会長の名で、同財団に特別の貢献があった人のみに贈られるというメダルが小野理事長に贈られた。

その後、小平センター長からの出席者への謝辞をもって JSPS Abend は閉会したが、その後も出席者の懇談は止むことがなかった。

会は終始和やかな雰囲気にもまれ、日頃顔を合わせる機会が少ない関係機関幹部等がお互いに日独学術交流をはじめ様々なテーマで意見交換をし、相互の理解促進及び今後の協力関係を深めた。



左から小野理事長、DFG クライナー会長



左から小野理事長、DAAD フーバー副会長



小野理事長による開会挨拶



「トラウト・コレクション」についての講演(左 マイヤー教授、右 馬場教授)



写真の保存用コンテナについての説明



AvH アウフデアハイデ事務総長からメダルを授与される小野理事長



会場の様子



小野理事長とボンセンター職員

## 2 2011 年 10 月以降の予定

- 10 月 21 日(金)      日本の大学及び渡日プログラムの紹介イベント開催(於フランクフルト)  
12 月 01 日(木)      第 8 回日独コロキウム開催(於ハイデルベルク、～3 日)

## 3 センター長雑感

ケルン大学で協定校の大学長・副学長を招いた日独シンポジウムのパネルディスカッションが開かれた折に、司会のシュタンツェル在日ドイツ大使が「日本の社会は内向きになっている。失われた 20 年に続く今年の三重災害で、日本は Confidence Crisis に陥っている」と言われた。やや突き放した感じのその発言に対して私は反論した。「日本の近代史を顧みると、鎖国江戸末期の黒船来航から明治維新を経ての日本帝国への興隆、世界を敵に回しての太平洋戦争敗北から「ジャパン・アズ・ナンバーワン」とまで呼ばれるに至った戦後の経済復興、いずれも閉鎖的な時代から自信喪失期を経て、新たな発展への道を拓いてきた。惑星地球の中緯度火山地震帯の縁に連なるユニークな日本列島の自然は、美しく、豊かだが、厳しく時には脅威でさえある。ここに育まれた日本の心根は、「なでしこジャパン」のワールドカップ優勝ゲーム展開そのもののように、危機を跳ね返して新たな希望へと導ける底力を内包しているものと信じる」と。自分に言い聞かせたのかも知れない。

小平桂一 2011.9.30



ぼんぼん時計第 33 号

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)

Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777

[www.jsps-bonn.de](http://www.jsps-bonn.de)